

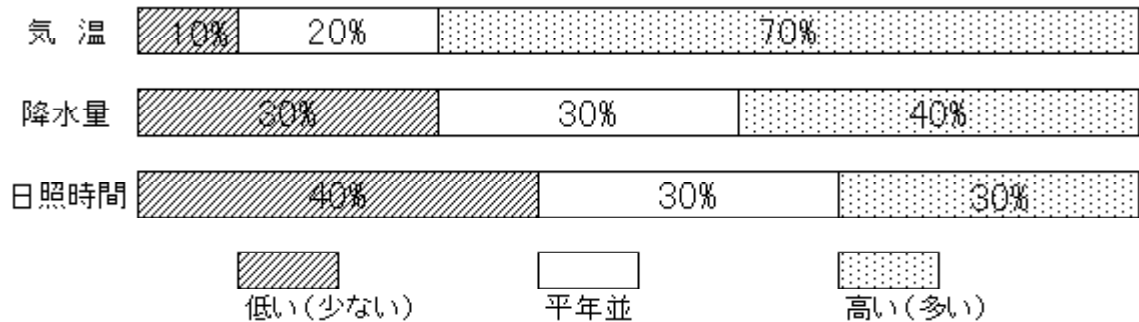
平成30年度 病害虫発生予察情報 発生予報第2号（5月）

平成30年5月 2日
島 根 県

予報の概要

区分	農作物名	病害虫名	予想発生量
普通作物	ムギ	さび病類	平年並
		赤かび病	平年並～やや多い
	うどんこ病	平年並～やや少ない	
	イネ	ヒメトビウンカ	平年並
ニカメイチュウ		平年並～やや多い	
果樹	ナシ	イネミズゾウムシ	やや少ない
		黒斑病	平年並
		黒星病	平年並
	カキ	シンクイムシ類	平年並～やや多い
		ハマキムシ類	平年並～やや多い
		ハダニ類	やや少ない～平年並
野菜	タマネギ	灰色かび病	平年並
		カキクダアザミウマ	平年並
		ボトリクス属菌による葉枯れ	平年並
	イチゴ	べと病	平年並
		腐敗病・軟腐病	平年並
		灰色かび病	やや多い
	うどんこ病	平年並	
	アブラムシ類	平年並	
	ハダニ類	多い	

中国地方1か月予報(4月28日～5月27日・広島地方气象台4月26日発表)
<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>



A. 普通作物

1) ムギ

(1) さび病類（小さび病、赤さび病）

予報内容

発生地方 県内全域

発生量 平年並

予報の根拠

① 4月下旬の巡回調査では発生を認めていない。

② ムギの生育はやや早い。

③ 5月の気象は本病の発生にやや助長的である。

(2) 赤かび病

予報内容

発生地方 県内全域

発生量 平年並～やや多い

予報の根拠

① 4月下旬の巡回調査では発生が確認されず、発生量はほぼ平年並みである。

② ムギの生育はやや早い。

③ 5月の気象は本病の発生にやや助長的である。

(3) うどんこ病

予報内容
発生地方 県内全域
発生量 平年並～やや少ない

予報の根拠

- ① 4月下旬の巡回調査では発生を認めていない。また、近年の発生量は少ない。
- ② ムギの生育はやや早い。
- ③ 5月の気象は本病の発生にやや抑制的である。

2) イネ

(1) ヒメトビウンカ

予報内容
発生地方 県内全域
発生時期 平年並
発生量 平年並

予報の根拠

- ① 予察灯への飛来は、4月第5半旬まで認められない。
- ② 4月中旬のすくい取り調査（耕起前）では、捕獲数は0.7頭/20回振（平年1.2頭）、発生ほ場率は70.0%（平年27.0%）で発生量は平年並みである。
- ③ 越冬世代成虫のイネ縞葉枯病ウイルス保毒虫率は0%（過去9年の平均1.5%）と低い。
- ④ 5月の気象は本種の発生にやや助長的である。

(2) ニカメイチュウ（第1世代）

予報内容
発生地方 県内全域
発生時期 やや早い
発生量 平年並～やや多い

予報の根拠

- ① 予察灯とフェロモントラップでの誘殺数は4月第5半旬にそれぞれ1頭認められ、平年に比べやや早い。
- ② 前年の第2世代成虫発生量は、予察灯への飛来は7頭（平年9.5頭）、フェロモントラップでの誘殺数は88頭（平年55頭）と平年並みで、越冬量は平年並みと考えられる。
- ③ 5月の気象は本種の発生にやや助長的である。

(3) イネミズゾウムシ

予報内容
発生地方 県内全域
発生時期 平年並
発生量 やや少ない

予報の根拠

- ① 予察灯への飛来は、4月第5半旬まで認められない。
- ② 予察灯による前年の新成虫の誘殺数は39頭（平年89頭）とやや少なく、本年の越冬量はやや少ないと考えられる。
- ③ 5月の気象は本種の発生にやや助長的である。

B. 果樹

1) ナシ

(1) 黒斑病

予報内容
発生地方 県内「二十世紀」栽培地帯
発生量 平年並

予報の根拠

- ① 4月23日の巡回調査では発病を確認しておらず、発生量は平年並みである。
- ② 5月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(2) 黒星病

予報内容
発生地方 県内ナシ栽培地帯
発生量 平年並

予報の根拠

- ① 4月23日の巡回調査では発病を確認しておらず、発生量は平年並みである。
- ② 5月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(3) シンクイムシ類

予報内容
発生地方 県内ナシ栽培地帯
発生時期 やや早い
発生量 平年並～やや多い

予報の根拠

- ① 初飛来日は4月5日でやや早い。
- ② 前年の性フェロモントラップでのナシヒメシンクイ第3世代成虫の誘殺数は平年並みで、越冬量は平年並みと考えられる。
- ③ 5月の気象は本種の発生にやや助長的である。

(4) ハマキムシ類

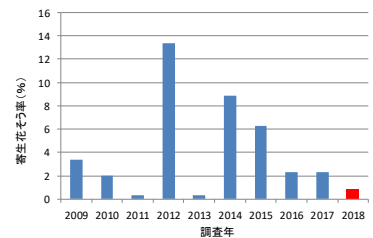
予報内容
発生地方 県内ナシ栽培地帯
発生時期 平年並
発生量 平年並～やや多い

予報の根拠
①フェロモントラップの初誘殺は4月16日で平年並み、誘殺数は平年並みである。
②5月の気象は本種の発生にやや助長的である。

(5) ハダニ類

予報内容
発生地方 県内ナシ栽培地帯
発生量 やや少ない～平年並

予報の根拠
①バンドトラップ調査ではカンザワハダニの越冬量は平年並みである。
②4月下旬の巡回調査(安来市)では寄生花そう率は0.9%(平年4.7%)とやや少ない。主要種はクワオオハダニで、本種に効果がない殺ダニ剤があるので薬剤の選定には注意する。
③5月の気象は本種の発生にやや助長的である。



ナシにおけるハダニ類の寄生花そう率の推移

2) カキ

(1) 灰色かび病

予報内容
発生地方 県内カキ栽培地帯
発生量 平年並

予報の根拠
①4月26日の巡回調査では発病葉率0.2%(平年1.2%)であり、発生量は平年並みである。
②5月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(2) カキクダアザミウマ

予報内容
発生地方 県内カキ栽培地帯
発生時期 平年並
発生量 平年並

予報の根拠
①4月下旬までに黄色粘着トラップで越冬成虫の誘殺は認められない。
②4月26日の巡回調査では巻葉被害が認められない。
③5月の気象は本種の発生にやや助長的である。

C. 野菜

1) マネギ

(1) ボトリチス属菌による葉枯れ

予報内容
発生地方 県内全域
発生量 平年並

予報の根拠
①巡回調査地点における4月下旬の発生量は、発生ほ場率6.7%(平年4.9%)、発病株率0.1%(平年0.1%)で平年並みである。
②5月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(2) ベと病

予報内容
発生地方 県内全域
発生量 平年並

予報の根拠
①巡回調査地点における4月下旬の発生量は、発生ほ場率23.3%(平年29.5%)、発病株率1.3%(平年3.4%)で平年並みである。
②5月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(3) 腐敗病、軟腐病

予報内容
発生地方 県内全域
発生量 平年並

予報の根拠
①巡回調査地点における4月下旬の発生量は、発生ほ場率26.7%(平年33.9%)、発病株率は0.7%(平年1.4%)で平年並みである。
②5月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。

- 2) イチゴ
- (1) 灰色かび病
- 予報内容
発生地方 県内全域
発生量 やや多い
- 予報の根拠
① 巡回調査地点における4月下旬の発生量は、発病葉率0.5% (平成0.7%) 発病果率0.7% (平成0.3%)と平年に比べてやや多い。
② 5月の気象は本病の発生を特に抑制する要因とはならない。
- (2) うどんこ病
- 予報内容
発生地方 県内全域
発生量 平年並
- 予報の根拠
① 巡回調査地点における4月下旬の発生量は、発病葉率0.2% (平成0.1%)、発病果率0.7% (平成0.6%)で平年並みである。
② 5月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。
- (3) アブラムシ類
- 予報内容
発生地方 県内全域
発生量 平年並
- 予報の根拠
① 4月下旬の発生量は、発生ほ場率40.0% (平成21.5%)、寄生株率4.0% (平成4.3%)、寄生小葉率0.7% (平成1.6%)と平年並みである。
② 5月の気象は本種の発生を特に抑制する要因とはならない。
- (4) ハダニ類 (ナミハダニなど)
- 予報内容
発生地方 県内全域
発生量 多い
- 予報の根拠
① 4月下旬の発生量は、発生ほ場率80.0% (平成60.1%)、寄生株率70.0% (平成31.9%)と多い。
② 5月の気象は本種の発生を特に抑制する要因とはならない。
- 注) 平成30年度 病害虫発生予察情報 技術資料第1号 (平成30年4月4日) 参照。

【参考となる事項】

※最新の農薬登録状況
独立行政法人 農林水産消費安全技術センターホームページには、農薬の登録や失効に関する情報、農薬登録情報検索システムなどが掲載されています。
農林水産消費安全技術センターのアドレスは <http://www.acis.famic.go.jp/>

島根県病害虫防除所 (島根県農業技術センター 資源環境研究部 病虫科)
〒693-0035 出雲市芦渡町2440
TEL 0853-22-6772、FAX 0853-24-3342
ホームページアドレス
http://www.pref.shimane.lg.jp/industry/norin/gijutsu/nougyo_tech/byougaityuu/
e-mail boujyo@pref.shimane.lg.jp